

# 西の池学園

## 「納涼花火大会」

8月14日、西の池学園自治会による納涼花火大会を行いました。ちょうどその日は小谷小学校区市民協働まちづくり協議会による花火が西の池学園敷地内から打ち上げられ、皆で花火を満喫することができました。夕食の後、こだま棟に集まってスイカをみんなで食べ、納涼しました。スイカはとても大きく、利用者の皆さんは大きな口をあけて美味しそうに頬張っていました。暗くなると、まずは西の池学園で準備した花火を行いました。大きな音ともに吹き上げる花火を見て「すごい！すごい！」と喜ばれ、笑顔があふれていました。中には「久しぶりに花火をした」と言われた方もいました。続いて、小谷小学校区市民協働協議会による打ち上げ花火が始まりました。とても盛大な花火で、見ている利用者さんから「わあー、きれい」「大きい！」「見てー」と1発上がるごとに歓声が起こり、とても喜んでおられました。



納涼花火大会の様子

支援員 片岡 瑞稀

今夏はコロナウイルスの影響により利用者さんも帰省ができないお盆となってしまいました。この状況の中で、利用者さんと楽しい夜を過ごせたことを、とてもうれしく思います。小谷小学校区市民協働協議会協議会の皆さんありがとうございました。これからも利用者さんと楽しい思い出をたくさん作っていきたいと思います。

## あおぞら工房

### 働く意欲の向上を目指して

あおぞら工房ではウエス製造や請負作業、施設外就労を行っています。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により仕事量が随分減ってしまい、利用者さんも、いつもあるはずの作業がない事に戸惑っている様子が窺えました。

そこで私たちはこれまでの作業の代わりに、保育所や農業法人の畑の草取り、空き缶や段ボールのリサイクル活動など新たな作業に取り組みました。利用者さんにとっては経験したことのない作業でしたが、積極的に取り組んで頂き、「空き缶の作業がしたいです」「保育所の草取りに行くんです。頑張ります」など、前向きな発言を聞くことができました。

また、作業中に仕事先の方から直接お礼の言葉を頂き、貴重な経験も積むことができました。声をかけられた利用者さんの表情は達成感で満ち溢れていました。また、苗箱を洗う作業では作業内容を高く評価され、「またよろしくお願いします」とありがたいお言葉を頂きました。これらは一生懸命働いた利用者さんの努力の賜物です。



草取り作業の様子

これからもあおぞら工房は利用者さんも職員も一丸となり新しいことにチャレンジしていきます。

支援員 山室 久美子

## ホームヘルパーズだま

### Sさんの居宅支援の取り組み

Sさんは、50代独居の男性で現在は就労支援施設で働いています。

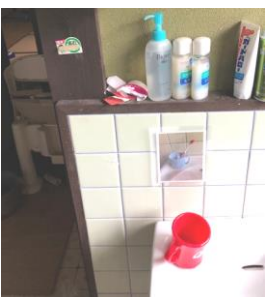
支援に入り始めた頃は、1人で料理が出来ることを目標としていましたが、今では簡単な物であれば一人で調理できるようになり、メニューも増えてきました。

しかし、古いものが捨てられず台所や洗面台などにスポンジや歯ブラシなどがたくさん置いてあり、居室の整理も必要な状態でした。そのため、Sさんが台所や洗面所にたまっていた物を処分できるように、簡単なルールを決めて一緒に取り組めるようにしました。

台所のスポンジや歯ブラシの本数など、写真カードを見える位置に貼り、決まった個数を意識してもらえるようにしました。

写真カードの効果で少しずつ個数が減り、古いスポンジや歯ブラシを使うことが減っています。しかし、他にも洗濯した衣類を干していない、乾いていない服をタンスに入れたり、いろいろな失敗もあります。

これまで、調理で失敗することもありました。少しずつメニューを増やすことができました。これからは出来ることを増やして、Sさんの自信につながるよう、取り組んでいきます。



写真カードで歯ブラシの本数を分かりやすく

ヘルパー 石倉 帆夏

## 宮領デイセンター

### スイカ割りを楽しみました！

宮領デイセンター、夏のレクリエーション「スイカ割り大会」を開催しました。

スイカやシート、棒を準備していると利用者さんもチラチラと職員の様子を見ています。準備が整ったところで皆さんをお呼びしました。

一人ひとり順番でスイカ割りをする中、私が特に印象に残ったのが普段は控えめなOさんでした。声掛けをしようとする、昨年の経験から説明がなくてもわかったようで、笑顔で私に近づいてくれました。棒を渡すと、ピョンピョンと跳ねながらスイカに近づいてツンツンと押しつたり、スイカから離れたりを何度も繰り返し、いつも以上の笑顔で、本当に楽しそうにスイカ割りをされました。

次の人に代わってからも笑顔で見学し、スイカが割れるのも嬉しそうに見ておられました。

今年の夏は猛暑とコロナの影響で外出が思うようにできず、利用者の皆さんはフラストレーションが溜まっているように感じていました。

このスイカ割りのひと時で、少しでもストレスを発散できたことはよかったです。大変好評でしたので、今年の夏はもう一回スイカ割りを行いました。



支援員 高橋 沙織

## 放課後等デイサービス 夕風

### 「夏休みの思い出作り」

今年には新型コロナウイルスの影響もあって、短い夏休みとなりました。そんな短い夏休みの中で子どもたちと夏の思い出を残したいと考え、吹き絵に挑戦することにしました。

早速、吹き絵の説明をすると「あー、やったことある！」「分からない」「やりたくない」と子どもたちによって反応は様々でした。

実際にやってみると「あーこれね！」と、やりたくないと言っていた子どもたちも、分かった途端に黙々と制作に取り掛かりました。

そして、完成した作品を手に、「職員さん見て！」「これはね・・・」と、作品のイメージについて一生懸命話してくれる子どもたちの顔を見てうれしくなりました。



吹き絵に挑戦！

今後も、子どもたちの創造力が湧き出るような企画を考えていきたいと思っています。

保育士 鈴木 総

## デイセンターだま

### 「ミニ勉強会を通して」

デイセンターこだまでは、自らが考え行動を起こせる雰囲気作りに取り組むことを目的に、職員が4グループに分かれテーマ・内容を決め講師となり、他の職員に講義を行う勉強会を3か月に1回実施することになりました。

第1回目は「接遇マナー」をテーマにしての勉強会でした。

「接遇」の接は「人に近づく」遇は「もてなす」という意味で、2文字を合わせた「接遇」とは、おもてなしの心を持つて相手に接することになります。

利用者さんやご家族との距離をぐっと縮め、安心や信頼を得る為に重要なポイントと言えます。

事例演習では支援中に携帯が鳴って出た場合や、何気ない会話で利用者さんと友達口調で話した場面を体験してもらい演習終了後にどう感じたか感想を聞くと「不快な気持ちになった」「適切でない言葉遣いだと感じた」等の意見が挙がり、平成会の職員として求められる挨拶・笑顔・身だしなみの他にも言葉使いや傾聴する姿勢等の接遇について考えるきっかけになりました。

勉強会開催をきっかけに職員一人ひとりが自ら考え行動に移すことを意識し始めたように感じました。

このような経験を積み重ね、職員がレベルアップすると共に、より良い支援の提供ができるようにしていきたいと思っています。

支援員 池尻 悠人

※誌面の写真、名前については、ご本人の同意を得て掲載しています。